

2 チーム分けジャンケンのこと

— 加治小歴史クラブ調査報告 —

学芸職員 波田 尚大

子どもの頃にしていた遊びを振り返ると、2 チーム同数に分かれて行うものを多くしていたように思います。ドッチボールなどは、同数に分かれなければ公平ではなくなってしまいます。同数に分かれるために、ジャンケンの手を使ってチーム分けを行ったことがあるという方も多いのではないのでしょうか。

言語学の分野では、このことについての研究が行われており、佐々木 香織氏が「新潟県における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布」という研究論文を発表しています。

佐々木氏は、新潟国際情報大学に在籍していた日本語学を受講していた学生 208 名分のアンケート結果を基にして、新潟県内における 2 チーム分けジャンケンの分布について調査を行いました。要約すると、新潟県内全域では、「ぐっとぱー」、新潟市東部では「ぐーろぐーろぐーろぱー」、新潟市西部では「ぐーぱーぐーぱーぐーとは」、新潟市周辺では「ぐーっち」に類する掛け声が多く使われていたことが明らかになりました。また、こうした地域差だけでなく、過去の調査データとの比較から、古い掛け声と新しい掛け声についての考察も行っています。これらのデータは、子どもの遊びの文化圏を示していると言えるでしょう。

飯能市立加治小学校で行われているクラブ活動の内の一つに、加治小歴史クラブがあります。同クラブからの依頼で当館の学芸職員が講師を務める機会があり、この 2 チーム分けジャンケンを実際にアンケート調査を行ってもらいました。その成果が下表です。

番号	掛け声	住所	生年	調査日
01	ぐーぱーじゃす	東京都青梅市(友田小)	1972	令和5年10月24日
02	くみくみしょーひとくみあえぱーとぱー	入間市金子	1973	令和5年10月24日
03	ぐっとばでわかれましょ	八王子市北野町	1974	記載なし
04	ぐっとぱ	さいたま市岩槻区	1976	記載なし
05	ぐっぱーじゃす	市内	1977	令和5年10月24日
06	うーらとおもてでわかれましょ	福岡県北九州市小倉	1978	令和5年10月24日
07	ぐっとばーでわかれましょ	埼玉県飯能市	1981	令和5年10月26日
08	ぐっとばーでわかれましょ	西東京市ひばりが丘	1988	令和5年10月24日
09	ぐっぱーじゃす	所沢市	1992	記載なし
10	ぐっとばーでわかれましょ	所沢市	1992	記載なし
11	ぐっぱーじゃす	所沢市下富	1992	令和5年10月24日
12	ぐっとばーでわかれましょ	市内	1995	令和5年10月26日
13	ぐっとばーでわかれましょ	飯能市川寺(加治小)	2011	令和5年10月24日
14	ぐっとばーでわかれましょ	飯能市川寺(加治小)	2011	令和5年10月24日
15	ぐっとばーでわかれましょ	飯能市川寺	2013	令和5年10月24日
16	ぐっとばーでわかれましょ	飯能市川寺	2013	令和5年10月24日
17	ぐっとばーでわかれましょ	飯能市川寺(加治小)	2013	令和5年10月24日

表 加治小歴史クラブによる 2 チーム分けジャンケンの掛け声調査

回収できたデータ数は 17 と多くありませんが、調査時点において、加治小学校に通っている児童の中では「ぐっとぱーでわかれましょ」が多く使われているようです。また、年代は違いますが、「ぐっぱーじゃす」も飯能市内では使われていました。どちらも、田中 千晶氏の WEB サイト「どっちの神様？」によると、関東全域で使用されている掛け声であったことが報告されています。

市内で、他の掛け声を使っていた、また現在使っているという方は、ぜひ当館までお知らせください。文字通りの” 児童 ”にも多様で豊かな文化があるということ、また子どもの遊びの文化圏、子ども

も同士の交流の在り様、年代差による伝承の断絶などが明らかになるかもしれません。

最後に、本稿の執筆にあたり、加治小歴史クラブの皆さん、顧問の山口則弘先生にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

佐々木 香織「新潟県における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』15 号 平成 24(2012)年 4 月

田中 千晶「じゃんけん掛け声（二手に分ける）県別一覧表」『どっちの神様？』

(<http://docchi.fan.coocan.jp/index.html>)